



### ● 梅屋庄吉ゆかりの地



マニラ時代の庄吉(中央)と独立軍のメンバー  
(※)

### ■ アジア人としての自覚

1882年(明治15) 14歳で上海に渡った庄吉が目にした光景は、武力を背景に我が物顔に振る舞う西洋人の様子でした。その後上海を皮切りに、何か目的を探してさまようかのように東アジアを転々とします。ここで抱いたアジア人としての危機感や自覚は、孫文との絆や民族主義者たちへの支援活動の原動力となりました。

### ■ 写真館ビジネス

カメラの前でポーズをとる庄吉少年。好奇心旺盛な彼は写真に関して何がしかの興味を持ったことでしょう。何より長崎には有名な上野撮影局がありました。庄吉はシンガポールで写真技術を習い写真館を始めたとされますが、当初はうまく経営を軌道に乗せることができなかったようです。しかし、香港で開業した写真館「梅屋照相館」は、出張撮影を行うなど新しいサービスを取り入れたこともあり、成功を収めました。

### ■ 運命の出会い

1895年(明治28) 庄吉は香港で開かれた慈善パーティで英国人医師ジエームス・カントリー博士から孫文を紹介されます。その数日後に孫文は「梅屋照相館」を訪れ、二人は熱く語り合い、「君は兵を挙げたまえ、我は財を挙げて支援す」という盟約が交わされることとなります。未来を切り開く情熱を持つ孫文と庄吉の運命の出会いでした。